



うるま市誕生
 20th
 anniversary



うるま市誕生

20周年記念誌

#うるまハタチ



人が輝き、
 地域のありのままが、
 感動を生むまち





ごあいさつ

平成の大合併の号令の下、本市が発足して20年が経過しました。これまでの歩みを支えていただいた市民の皆様、そして関係者の方々へ心から感謝申し上げます。

人に例えるならば、「ハタチの節目」は、ちょうど人生の一区切りを迎え、大人として自立と挑戦を始める時期です。本市も、これまでの経験や関わるすべての人々とのつながりを大切にしながら、さらに輝かしい未来へと進む準備が整っています。

本市は「人が輝き、地域のありのままが、感動を生むまち」というコンセプトを掲げています。これは、このまちに広がる自然、そこで育まれた文化、人々が紡ぐ日常の何気ない瞬間——これらすべてが特別であり、私たちにとってかけがえのない「感動の源泉」であるという思いから生まれた言葉です。20年という歴史を重ねる中で、市民一人ひとりの努力と思いが、このまちの「感動の源泉=まんまうるま」をより豊かなものにしてきました。

この節目を新たなスタートと捉え、次の10年、20年に向けて、これまで築いてきたものをより価値あるものへと育てていく。また、皆様とともに、まちの魅力をさらに磨き上げ、次世代を担う子どもたちが「まんまうるま」を誇れるまちづくりを進めていきたいと考えています。

これからもこのまちが感動を呼び起こし、笑顔あふれる場所であり続けるよう、市民の皆様と力を合わせて歩み続けたいと思います。

20周年という大きな節目を迎えた喜びとともに、皆様への感謝を胸に刻み、市制20周年の記念誌へのごあいさつとさせていただきます。

令和7年10月

中村正人



since 2005 ~ 2025 HISTORY



本市は、2005年(平成17年)4月1日に旧具志川市、旧石川市、旧勝連町、旧与那城町の2市2町が合併して誕生しました。市名は沖縄の古い言葉に由来しています。「サンゴの島」のことを「ウルマ(ウル=サンゴ、マ=島)」と呼び、美しい景観の沖縄の島々を示す言葉でもあることから、「うるま市」と名付けられました。

旧具志川市は豊富な水資源と肥沃な土壌に恵まれ、かつてサトウキビの生産量は沖縄一を誇っていました。また太平洋戦争後は、沖縄文教学校、沖縄外国語学校、農林学校などが創設されたことから、文教のまちとしても発展を遂げられました。旧石川市は、戦前までは現在の沖縄市にあたる美里村に属していましたが、戦後に分離し、石川市となりました。戦中戦後は、難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢会、民政府が設置され、沖縄の政治・経済・教育文化の中心的役割を担っていました。旧勝連町は、勝連城主・阿麻和

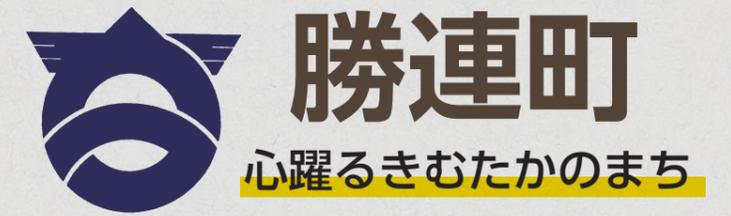
利の時代、海外との活発な交易により、大和の京や鎌倉に例えられるほどの繁栄を築いていたと伝えられています。勝連城は2000年(平成12年)に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして、世界遺産に認定されました。旧与那城町は、約6,000年前のもとのみられる土器が発見された藪地洞穴遺跡(藪地島)や、約2500年前に集落があったとされる「シヌグ堂遺跡(宮城島)などがある歴史の古いまちです。琉球王国の国王・尚寧王(しょうねいおう)の父親にあたる與那城王子尚懿(しょうい)の拝領地であったとも伝えられています。

これらの隣接する4つのまちは歴史的なつながりが強く、地縁、血縁など住民同士の交流も古くから続いており、現在では一つの市になったことで、生活・経済・文化面においてより一体的な歩みを刻み続けています。



contents

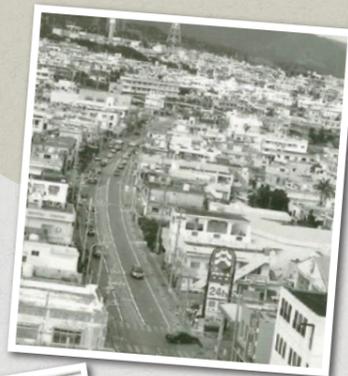
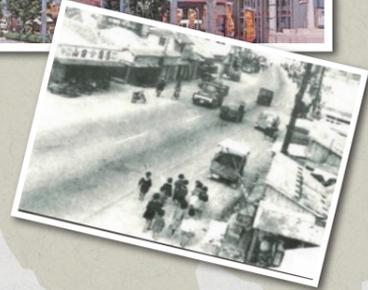
- 1 うるま市ヒストリー
- 2 2市2町合併
- 4 感動産業特区
- 5 歴代市長メッセージ
- 6 20周年HYインタビュー
- 8 著名人お祝いコメント
- 10 うるま市の未来対談
- 12 うるま市民20名登場
- 14 感動!うるまの魅力
- 20 うるま市ミライ予想図
- 24 感動を紡ぐ、うるまの未来
- 28 写真で振り返るうるま市の20年
- 36 まんまうるまセレクション
- 38 うるまトリビア
- 40 まんまうるま



うるま市 市政施行 20周年

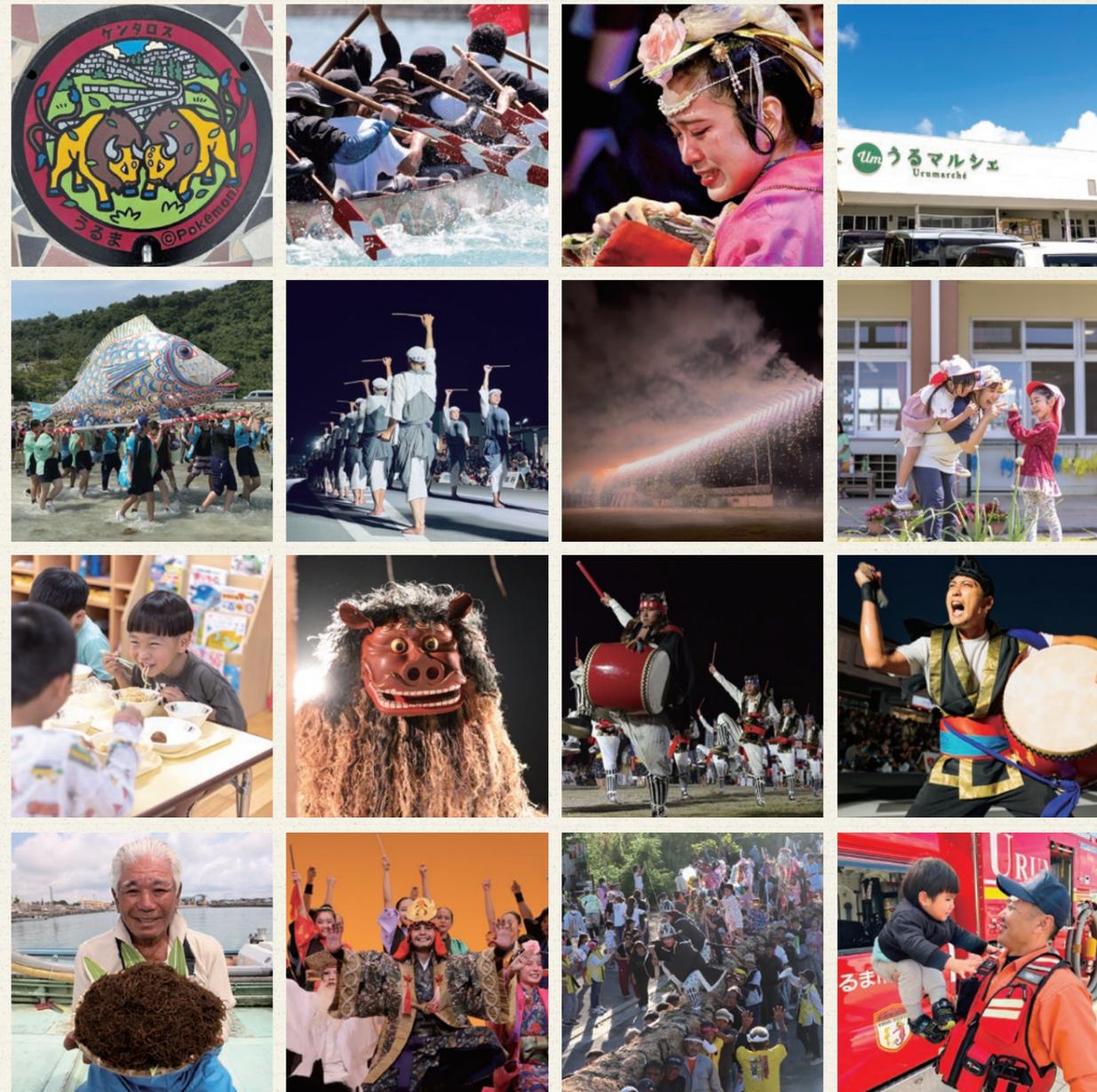


うるま市は2005年4月1日、沖縄県の具志川市、石川市、勝連町、与那城町の2市2町が合併して誕生しました。市名「うるま」は「うる」＝「珊瑚（さんご）」「ま」＝「島」を意味する古琉球語で、自然と文化、そして人を大切にする市として2025年で誕生20周年を迎えました。



今も息づく「肝高き」精神が 人を作り、感動を作り続ける

県内3番目の人口を誇るうるま市。そこには豊かな自然環境や歴史的な観光地や文化・芸能が多くあります。一方、その魅力を十分伝えられていないという課題があることは否定できません。そこで本市では、全てに内包される「感動」というものを一つの軸にすることを考えました。そして多くの人々を感動させる地域であり続けるために、令和5年(2023年)に全国発となる「感動産業特区」宣言をしました。私たちは感動を産業とすることで自然や文化を守り、未来と世界に届けることが可能だと信じています。感動の波紋は、やがて波となり、うるまの青い海を輝かせるはずです。



●合併当時、印象に残っていること

合併では地域に格差をつくってはいけないとの思いが強く、庁舎の場所をめぐる議論は最も白熱しました。市名は全国から5千件を超える応募があり、海の豊かさを活かし、子どもたちにも親しみやすい「うるま」が選ばれました。それぞれの地域課題に応えることを大切にしましたが、特に学校の統廃合は苦労しました。勝連のもずくや石川の山城茶、津堅島のにんじんなど、地域の特産を新しいまちづくりに生かしたいという思いもありました。

●今後どのようなうるま市になってほしいか

これからも海も山も文化も豊かな「リトル沖縄」と呼ばれるまちで、生まれてよかった、住んでよかったと思えるうるま市を目指してほしいですね。



初代市長
平成17年5月15日～
平成21年5月14日
ちねん つねお
知念 恒男氏

●印象に残っていること

私は2代目市長として、合併前の4地区に分かれていた市民を一つにつなぐため「うるま市はひとつ・市民協働のまちづくり」を目指してまいりました。初代市長から受け継がれてきた新しい市の将来ビジョンの実現に、全力で取り組んだ3期12年であり、市長在任中には、まちづくりと人づくりの一環として、島しょ地域における7つの小中学校の統廃合による「複式学級」の解消を行い、教育環境の均等化を実現。中城湾港の利点を生かした企業誘致を積極的に推進し、市の財政強化と雇用の改善。そして、市民サービスの向上のために、4地区に分散していた分庁方式を改め、新庁舎の建設を行いました。

●今後どのようなうるま市になってほしいか

市長在任中に、市としての「足腰」は強化できたと思っていますので、あとは飛躍するのみ。より魅力ある市として発展してほしいと願っています。



第2代市長
平成21年5月15日～
令和3年5月14日
しまぶく としお
島袋 俊夫氏

●合併当時、印象に残っていること

合併当時を振り返りますと、異なる文化や歴史を重ねてきた2市2町が一つになることは、正直、想像の範囲を超えていました。私自身、市町村合併を経験したことがなく、一体どうなるのか計り知れない部分もありました。多くの苦労は伴いましたが、この歴史的瞬間に携わることができたのは、最終的には本当に「良い経験をしたな」と感じています。これまで合併を牽引してこられた方々には、深い感謝と敬意を表したいと思います。

●今後どのようなうるま市を目指すか

うるま市の未来は「人」がテーマです。将来を担う子どもたちが中心のまちづくりを目指し、地域全体で支え、夢や希望を持てるよう、文化やスポーツなど様々な面で子どもたちを支援していきたいと考えています。



第3代市長
令和3年5月15日～現職
なかむら まさと
中村 正人氏

市民とともに歩んだ市長たち

HY うるま市誕生 20周年記念 SPECIAL INTERVIEW

2021年に「うるま市観光大使」に就任したHYは、メンバー全員が生まれも育ちもうるま市。それぞれが感じる“うるま市のコト”を教えてくださいました。



うるま市はHYにとってどんな存在？

新里英之:うるま市の美しい自然の中で大切な色々な事を遊びながら学んだ特別な場所。生まれ育った場所です。

名嘉俊:大好きな場所です。

許田信介:生まれ育った地元、土台ができた場所。

仲宗根泉:今も当然住んでいるので、なくてはならない場所だし自分という存在の証しでもあります。

うるま市での思い出を教えてください

新里英之:学生の頃はうるま市の海でいつも遊んでいました。潮干狩りしたり、泳いだり、デートしたり、叔父の漁の手伝いをしたり、地元の海はぼくの庭です。

名嘉俊:海中道路が新しくなる前に(片側1車線の頃)友達と海で遊んでいたのが、僕の青春の1ページです。今は無きレクリエーションセンターでいとこ達とクワガタを捕まえていました。今では海中道路で楽曲制作をしたり仕事でもプライベートでも大体うるま市で生活しています。

許田信介:石川の闘牛場で行ったライブはかなりインパクトがありました。

仲宗根泉:小さい頃は川で魚を釣ったり泳いだり、秘密基地を作ったりしたりし、お金がなくて天ぷら屋の前をうろちよろしていたら店の人が、「イーズー！これ失敗したから食べていいよー！」と声をかけてもらうこともあり、地域一体が自分のこどもみたいな感じで育ててもらいましたね。

合併前と今のうるま市の変化を教えてください

新里英之:賑やかになって楽しみが増えて繋がりが出来て嬉しいです。だからうるま市の皆様！行ったことがないうるま市の地域に行ってみて、楽しんでもっと繋がってください。

名嘉俊:道が大きくなったり観光客も増えた感じがします。観光スポットも美味しいお店も増えたからかな。

許田信介:まちとして大きくなり、どんどん栄えてくる勢いが今でも驚きます。また勝連城跡が世界遺産にもなりとても嬉しい限りです。

仲宗根泉:昔は、近くにあるのにお互いの良さを全く知らないし行き来することもなかったですが、高校から与勝に行くようになり、そこで阿麻和利や、勝連城、海中道路や、また、石川の闘牛や、石川の雰囲気を知っていき、今ではだいたい他の市よりも色々なものを持っている強みの多い市だと思っています。

今後うるま市がこうなればいいな？と思うこと

新里英之:豊かなうるま市の自然と融合しながら住みやすい町になる様に、ここから生まれる音楽を全国に届けていきたいです。

名嘉俊:こども支援が充実するといったと思います。

許田信介:昔から住み良い場所ですし、もう理想に達しているんじゃないでしょうか。

仲宗根泉:やはりこれからはこども達の時代です。こども手当てや支援など生まれてきたこどもたちが生まれてよかったと思える環境や、税金の問題など、うるま市に住みたいと思ってもらえるような場所にしたいです。

【プロフィール】

2000年結成。沖縄県うるま市出身4人組。グループ名の「HY」は、彼らの地元・東屋慶名(Higashi Yakena)の地名が由来。現在も沖縄に在住し、「More Local, More Global」(もっと地域にもっと世界に)をテーマに全国・世界へと音楽を発信している。2024年12年ぶり3度目の紅白へも出場。2025年は楽曲「366日」をモチーフにした劇場映画「366日」が公開。その主題歌「恋をして」を収録した通算16枚目となるオリジナルアルバム「TIME」をリリース。劇場映画では、うるま市のロケーションも舞台となっている。

周年メッセージ

さまざまな分野で活躍するうるま市出身、うるま市在住で活躍中の著名人の皆さんにうるま市のこれまでの思い出や、まちの変化、20周年のお祝いメッセージをいただきました。



俳優
ひが まなみ
比嘉愛未さん

■うるま市の好きなところは？

今も昔も私がよく訪れるのは浜比嘉です。あやはしの美しい景色と、真っ直ぐに続く道を抜けた先にある島の、ゆったりとした空気感にいつも癒されています。

■うるま市での思い出を教えてください

小学5年生の時には学校の合唱コンクールで独唱に選ばれ、うるま市民芸術劇場の舞台に立たせていただいたことが思い出深いです。振り返れば、表現者としての道が開けたのは、あの瞬間からだったのかもしれない。

■20歳のうるま市へメッセージを！

誕生20周年、本当におめでとうございます。自然と人々が共に生き、護り、そして進化を重ねていく素晴らしい場所を、心から誇りに思います。

【プロフィール】

1986年6月14日生まれ。沖縄県うるま市出身。2005年に映画デビュー、2007年NHK連続テレビ小説「どんど晴れ」へのヒロインに抜擢されドラマ初出演にして初主演をきっかけにうるま市・岩手県盛岡市との友好都市大使に就任。様々な作品で幅広い役柄をこなし、人気作「コード・ブルー-ドクターヘリ緊急救命-」シリーズの他、「フォレスト」「放送局占拠」など多数出演。

漫画「沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる」作者

そら
空めぐみさん

■うるま市の好きなところを教えてください。

沖縄の伝統芸能が色濃く残るうるま市。漫画を描きたいと沖縄に移住しましたが、住んでいくうちに沖縄の人々を描きたいと思うようになった、そんな人も温かい街です。

■うるま市でおすすめの場所を教えてください。

私のおすすめの場所は具志川ビーチです。作品作りのきっかけとなった思い出の場所でもあります、きれいな朝日が見られるところが自慢です。

■20歳のうるま市へメッセージを！

20歳おめでとうございます！文化も人々も魅力的な素晴らしいうるま市と出会えたことは私にとって本当に幸運なことだと思っています。これからもうるま市を盛り上げるために微力ながらお力添え出来ればと思います。



【プロフィール】

漫画家。新潮社のウェブコミックサイト「くらげパンチ」で「沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる」を連載中。沖縄の文化や言葉をユーモラスに描いた同作はアニメ化もされ、主題歌をHYが担当するなど話題を集めた。



幕内力士
ちゆらのうみ
美ノ海さん

■うるま市の好きなところは？

子どもたちが元気いっぱい、相撲を通じて礼儀や仲間との絆を学んでいる姿を見ると、改めて地元の温かさを感じます。保護者や地域の皆さんが子どもたちを応援してくれる雰囲気素晴らしく、ふるさとならではの力を感じます。

■20歳のうるま市へメッセージを！

「美ノ海杯・うるま市ちびっこ相撲大会」を通して、地元の子どもたちと一緒に相撲の楽しさを分かち合えたことを嬉しく思います。また来年もこの大会をうるま市で開催し、子どもたちが元気よく土俵に立つ姿を楽しみにしています。相撲を通じて、これからもふるさと・うるま市を盛り上げていきたいです。

【プロフィール】

うるま市出身の幕内力士。2016年に初土俵を踏み、2018年に新十両昇進。2023年11月場所で新入幕を果たし、最高位前頭四枚目を経験。地元では「美ノ海杯ちびっこ相撲大会」を開催し、子どもたちに相撲の魅力を伝えている。



お笑いコンビ
ぼんてん
梵天さん

■うるま市のおすすめを教えてください

薪子：闘牛の迫力はすごいです！牛がワンちゃんのノリで普通に散歩していたりして、度肝を抜かれます。

■20歳のうるま市へメッセージを！

しおたむ：20周年おめでとうございます！まさか9個年下だとは思いませんでした。4つの町市が合併した時に「どんな街になるんだろう？」と楽しみにしていたのを覚えています。これからも、大好きで自慢の地元です！！

【プロフィール】

薪子としおたむの姉妹からなるうるま市石川出身のお笑いコンビ。「THE WJ」では準決勝を経て2023年に決勝進出を果たし、全国的に注目を浴びる。地元愛あふれる笑いで人気を集める。



プロゴルファー
ひが かずき
比嘉一貴さん

■うるま市の魅力を教えてください

沢山歴史があるところや、山や海など綺麗な自然がたくさんあります。また、歴史や文化も素敵で、特に肝高の阿麻和利はうるま市の自慢です！

■20歳のうるま市へメッセージを！

子供の頃、学校の先生や市民の温かい皆さんに見守られながら育ちました。ゴルフを通して、もっと世の中に「うるま市」を知ってもらえるようにこれからも頑張ります！

【プロフィール】

国内外で活躍し「KBCオーガスタ」で初優勝。「日本ゴルフツアー選手権」で初タイトル。2025年9月「シンハンドンヘオープン」で今季2勝目を飾る。



PSYCHIC FEVER
こはつ こころ
小波津志さん

■うるま市での思い出を教えてください

石川祭りに家族でよく行っていました。当時ブレイクダンスを習っていたので、祭りでパフォーマンスしたことを覚えています。

■20歳のうるま市へメッセージを！

改めまして、誕生20周年おめでとうございます。微力ながらではありますが、自分自身もうるま市に恩返し出来るようにこれからも活動していきます。

【プロフィール】

うるま市出身。EXILE TRIBEの新世代グループ「PSYCHIC FEVER」のメインボーカリストとして活動しているアーティスト。タイと日本の文化交流イベントである「タイ日本博」では、3年連続でテーマソングを担当。



シンガーソングライター、タレント
ひらかわ みか
平川美香さん

■うるま市での思い出を教えてください。

小さいころから家族で行ったうるま祭り。約20年後そのステージで自分自身もライブさせてもらった時は心から感動しました。

■20歳のうるま市へメッセージを！

どの地域にも負けないくらい地元愛があるうるま市に生まれ、心から誇りに思うと同時に、ここに至るまでの20年間みんなで作り上げた大切な絆だと思います。これからも共に支えあい切磋琢磨し、素敵なまちづくりをしていきましょう！

【プロフィール】

うるま市出身の歌手。HYの仲宗根泉の従妹にあたる。ユーモラスなキャラクター「平川のおじさん」でも知られ、ライブやTV出演を通じ明るい歌声を届ける。



プロゴルファー
あらかき ひな
新垣比菜さん

■うるま市の魅力を教えてください

のどかで、どこへ行くにもアクセスしやすい海中道路はうるま市を象徴する素敵な場所です。宇堅ビーチやうるままつりにも、思い出がたくさんです。

■20歳のうるま市へメッセージを！

誕生20周年、おめでとうございます。うるま市民として地元を元気付けられるように、これからも試合で結果を残しながら地元へ少しでも貢献できるよう頑張っていきます。

【プロフィール】

ダイキン工業株式会社所属のプロゴルファー。アメリカ合衆国ジュニア国際大会で単独優勝をはじめ、国内外にて様々な実績を残しながら現在も活躍し続けている。



パーソナリティ、タレント
まへひら ひとし
真栄平 仁(ひーぽー)さん

■うるま市での思い出を教えてください。

うるま市安慶名で育ち、現みどり町が原っぱだった頃にモトクロス自動車でジャンプしたり、商店街でゲームしたり、幼馴染や同級生と一緒に色々な遊びをしました。

■20歳のうるま市へメッセージを！

うるま市20周年おめでとうございます！ここからより成熟した市に、益々発展していくことを願います！これからも人々が笑顔で、活気あふれるうるま市になりますように！

【プロフィール】

演出家、お笑いタレント。株式会社オリジンll所属代表取締役会長、劇団O.Z.E代表。テレビ・ラジオ・CM、イベントの司会などマルチに活動。

うるま市の未来対談

福祉関係の仕事しながらエイサー活動を行う山根さん、ビスケット屋「otama」を経営し、商工会に所属する宮城さん、世界で活躍する体操選手として地元で指導者をする又吉さん。それぞれが感じるうるま市の魅力と、まちでの未来を語っていただきました。

みなさんにとって、うるま市はどんなまちですか？

山根さん:地域の繋がりが強いまちだと思います。家族の影響もあり、地域の祭りやイベントに積極的に参加したり、兄や姉の友人に遊んでもらったりと、世代を超えているいろいろな人と触れ合いながら大人になりました。コンビニでお金が足りなかった時に店員さんがおまけしてくれたことも。いまだに市内のあちこちに知り合いがいて声をかけてもらえます。

宮城さん:沖縄市出身で、店舗立ち上げのためにうるま市に移り住んで14

年目になります。いろいろな出店候補地があったなか、なぜか「うるま市がいい!」と感じました。人生で初めて事業を起こしたのですが、商工会青年部からお誘いいただき、経営のことをしっかり学ぶ機会にも恵まれ、横のつながりもできました。常に人の温かさに助けられていて、最初に抱いた直観は正しかったと実感しています。

又吉さん:幼い頃から体操に取り組み全国的な大会に出場していましたが、まちの方から「テレビ出てたね」「新聞見たよ」と声をかけられたり、進学先からの里帰りの際にも「お帰り」と言われたり。みなさんの応援を肌で

感じています。また、現在はスポンサー活動を通して海外遠征の費用を貯めているのですが、非常に多くの方々に協賛してもらっており、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからうるま市でどんなことをしていきたいですか？

山根さん:今年から青年会のOBになりましたが、エイサー活動等を通して新人の定着率向上や、困難を抱える子どもたちとの継続的な関わりを強化したいです。子どもたちにとっては、エイ

サーという場が第三の居場所として機能しているんです。エイサー演舞で成功体験を創出し、彼らが生き生きと暮らせるようなサポートをしながら、伝統を守りつつ持続可能なコミュニティを築いていきたいですね。

宮城さん:昨年度まで商工会青年部の部長を務めた経験から感じたことは、市には素晴らしい事業者が多い一方、PRがあまり得意ではないということです。そこで、PRのためのイベントを何度か開催したところ、大きな反響がありました。今後も引き続き地域事業者のPR支援を行い、子どもたちが地元の多様な職業を知る機会を定期的に作り、

働き手不足解消と地元就職促進の仕組みを作っていきたいですね。

又吉さん:スポーツでうるま市を盛り上げていきたいです。現在指導しているチームは優秀な成績を取っていますが、競技成績以上に重視しているのは、子どもたちの人間教育です。重要なのは、子どもたちに「悔しい、嬉しい、悲しい」といった感情を大切にもらうこと。怪我もしながら、怒られながら、助けられながら人間として育っていくスポーツの価値を伝えたいんです。そして、失敗を恐れず全力で挑戦する子どもたちと、それを全力で応援できる環境を整えていきたいです。



エイサー活動を通して
子どもたちの
成功体験を増やし、
皆が生き生きと
暮らせるまちにしたい

やまね だいち
山根大知さん
第134代 屋慶名青年会副会長

地域事業者のPR支援を行い
うるま市の事業者の魅力を広め、
働き手不足解消の一翼を担いたい

みやぎ よしえ
宮城芳枝さん
otamaビスケット代表・
第9代商工会青年部部长

うるま市から世界レベル選手の
継続輩出を目指し、
スポーツを通じて
人間的に成長できる
教育を進めたい

またよし けんと
又吉健斗さん
ケンケン体操教室代表・
タンブリング国際大会出場
日本代表選手

タコライスが好き



第107回夏の甲子園優勝！市出身で大活躍の2人！
(うるま市出身 沖縄尚学メンバー 伊波慎人選手、田場典斗選手)

孫・知恵ちゃん大好き



芸人・梵天(ぼんてん)も15年教えました。東恩納くもんで41年ごどもたちの人生を見届けた先生。
(与那嶺さん)

やぎ汁で元気
モリモリ！



やぎ汁に込めた想いは、うるまのありのままの自然と人々の温もりです。
(やぎとそば太陽 仲西さん)

愛情たっぷり
鳥野菜



一つひとつの野菜に、うるまの自然と
思いを込めています。
(HYファーム協力農家の皆さん)

「現代版組踊
「鬼舞」



2年生の頃、市のプログラミング大会で
ゲームを開発し見事優勝！
(天願小学校 プログラミング女子 碧彩さん)

「なにもないが
「ある」？津堅島



オジーの残した民俗×音楽で島おこし！
沖縄音楽発祥の島からありのままの自然と
素敵な音楽をお届け！
(津堅島 民俗 神谷荘の皆さん(オジーの残した民俗))

最高♪
海中道路って



うるま市中が笑顔になるような歌を
歌いたい！トークも上手な3姉妹。
(ドリームシスターズのメンバー)

美味しい
いなりとチキン



県内外からもお客さんの集まる時代
を超えて愛される名店。
(丸一食品の皆さん)

伊波水産に
よく行くよ！



地域に根差し、暮らしを彩る家具店。
オリジナルTシャツも可愛い。
(赤嶺家具の皆さん)

ちやいな食堂らくの
チャーハン



このうるまラバーズのTシャツを、
うるま市のみならずお揃いにしたいな。
(うるまラバキッズ 笑麻さん)

うるまのこともち
うるまの



うるま市が誕生するずっと前からこ
どもたちの笑顔を育て見守ってきた
先生。
(すこやか保育園 上原さん)

G高、前高が
思い出深い！



うるまの高校で長きに渡り、サッカー
指導に貢献した教諭。
(那覇西高校 連天さん)

安慶名のビック
ハートが好き



沖縄県勢初のインターハイ400m優
勝。県記録も更新した若き陸上選手！
(東洋大学 平川 慧選手)

うるま市民 20名に聞いた うるま市の 好きなところ

うるままで
家族時間
過ごす



チェロ演奏者としてうるまの色々な
イベントで活躍中
(ジュニアオーケストラ大成さん)

全てが
うるまの良さ



60年に渡り地域とともに歩んできた
「わらじや」店主
(玉城さん)

江洲のじゅう
じゅうき



70名超の青年会をまとめ、エイサー
のみならず地域清掃やボランティア
活動にも力を注ぐ。
(江洲青年会 安次富さん)

赤崎レストラン
よく行ったさー！



85歳でまだまだ現役のケーキ職人。今
日も、美味しいケーキを作っています。
(アラモード佐次田さん)

こどもが夢に
向かって育つうるま



学力だけでなく人間性も育て、地域に
多くの卒業生を送り出してきた塾長
(栄進塾塾長 池之上さん)

ナフンが好き



2024「ボクの生き物展」を開催！現在
も照間の生体調査を進めています。
(高江洲中1年 昆虫博士 諒珂さん)

感動！うるまの魅力

那覇から車で約50分。金武湾と中城湾に面したうるま市は、いたるところから澄んだ海を望むことができ、また緩やかな丘陵には緑が広がり、豊かな自然と都市機能が調和した魅力あふれるまちです。

自然 NATURE

浜比嘉島

海中道路・浜比嘉大橋で本島と結ばれた周囲7kmの小さな島。琉球開闢(かいびやく)の神が眠るといわれ、昔ながらの沖縄の風景が今なお残っています。

果報(かふう)バンタ

宮城島にある、高さ約70メートルの崖の上から、透明度抜群の青い海と壮大な景観が見渡せます。

美しいうるまの自然に感動

沖縄本島中部の東海岸に位置し、「さんごの島」という意味を持つ沖縄の言葉「うるま」から名付けられたうるま市。その名のとおり、コバルトブルーの海に囲まれた風光明媚なまちです。北部には標高204mの石川岳がそびえ、東側に緩やかに傾斜しながら金武湾へと続く多様な地形や、南部に伸びる勝連半島の北方海上に点在する10の有人・無人の島々が、美しい風景を織りなしています。太平洋に伸びる勝連半島の沖合には、全長4.7kmの「海中道路」や架橋で結ばれた島々が連なり、道の両サイドに美しい海が広がる絶好のドライブスポットに。海と橋、澄んだ空、島や山を覆う豊かな緑が調和し、うるま市特有の景観が作り上げられています。

海中道路

勝連半島と平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島の4つの離島を結ぶ全長4.7kmの海上の道路。

伝統文化

TRADITION



「肝高(キムタカ)」の
こころを世界へ！

「琉球の船を世界中に走らせよう！」感動発信の舞台が
示す、「うるま市」の未来の姿が世界を照らす太陽に！

現代版組踊「肝高の阿麻和利」初代演出家／南島詩人
平田大一氏



& CULTURE



見えてないけど、
誰よりも地域を見ている



中は熱くて重くて顔は見えない。でも地域の期待と笑顔は全部感じています。

勝連南風原獅子舞
仲與根 伊織氏
島袋 萩羅氏



『感動』
牛が教えてくれる



真剣勝負に魂が燃える！伝統の闘牛が
魅せる感動と興奮を「うるま市」で！
ヒーヤイ！ヒーヤイ！

闘牛実況アナウンサー
伊波大志氏



人の魅力が島と歴史をつなぐ

津堅島ってやっぱり人がすごく魅力的なんです。自分がここで仕事をできるのも、島の人たちが助けてくれるからだといつも思っています。

津堅島シークルーズ 源古 康博氏



正直、最初は分からなかった

昔から続いている行事にただ参加してた。でも今は島の空気感とか、昔の人の想いを感じることがすべてできます。

平安座青年会 上里 陽海氏



うるまの歴史、伝統芸能に感動

うるま市は、沖縄のなかでも古くからの文化や芸能が多く残る地域の一つです。琉球の開闢神話にまつわる史跡から、数千年前の住居跡、世界遺産の勝連城跡をはじめとしたグスク時代、琉球王朝時代、そして近代にいたるまでの貴重な文化財が数多く保存されています。また近年では、その文化的遺産や歴史についてより親しみを持って触れられる施設が整備されており、その一つである「あまわりパーク」には

勝連城跡を中心とするうるま市の歴史や文化、城主・阿麻和利についても楽しみながら学ぶことができます。伝統文化においては、エイサーや闘牛、獅子舞などは各地域で長年培われ、若い世代へも脈々と受け継がれています。「うるま市エイサーまつり」や「全島獅子舞フェスティバル」などのイベントを通して、県内外へもその魅力を発信しています。

PERFORMING



「一生懸命ってかっこいい」東京公演で私を支え、導いてくれた心の言葉。

第11代阿麻和利役
ふくなが ゆひや
福永 勇飛也氏

ちむどんどの芸能に感動

うるま市は沖縄でも有数のエイサーどころであり、各地域の青年会がそれぞれの型を持っています。衣装も地域ごとに特徴があり、白とグレーのシンプルな衣装から、黒地に金の刺繍が施された豪華な衣装、花笠などバラエティーに富んでいます。演目や踊り方も各地域ごとに異なり、ダイナミックに太鼓を持ちながら空へ跳び上がったり、荘厳な出で立ちで一糸乱れぬ舞をみせるなど、長年受け継がれてき

た伝統芸能の深さを感じさせます。一方、芸能の世界では現代版組踊「肝高の阿麻和利(きむたかのおまわり)」が話題を集めています。うるま地域の中高生のみで演じられる沖縄版ミュージカルで、「組踊」をベースに、現代音楽とダンスを取り入れ、地域の歴史上の英雄・阿麻和利の半生を描きます。2000年の初演以来、沖縄県内外、海外での公演を重ねています。

& EISA



エイサーに
育てられて



自分も先輩方に教わってきた。今は次の世代へと繋いでいく番だと思っています。

うるま市青年連合会会長
さきまきよかつ
崎上桂弥氏

感動
あふれる
未来へ。

うるまミライ

予想図

市内の自然を活かした公園整備や観光客増加に繋がる勝連城跡周辺の整備事業など、これからの市の発展に期待が高まる、まちづくりを紹介します。



地域をつなぐ 道路ネットワーク

中部東道路

高規格道路としての役割が期待される中部東道路は、沖縄自動車道から海中道路を結び、渋滞解消のほか、空港等へのアクセス性向上、各地域との交流連携の強化により、産業や観光の活性化が期待されます。また、救急搬送の時間短縮や激甚化・頻発化する災害に備える道路ネットワークの機能強化など、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保します。



こどもたちが育つ 次世代体育館

うるま市総合体育館

うるま市総合体育館は、市民の健康増進と地域活性化に寄与するスポーツ拠点施設となる他、交流の場として多くの市民が利用し賑わいを創出する場となり、多様なスポーツへの関わりを通じて心身ともに健康になれる施設へと生まれ変わります。また、こどもたちが多くのチャレンジをとおして育ち、世界へ羽ばたく次世代育成型施設です。災害発生時には、様々な災害等に対応した避難施設となり、市民の安全・安心を守る拠点として役割を果たしていきます。

うるま市民の声



まちに夢を、心に元気を

うるま市総合体育館の完成が待ち遠しい。スポーツ活動だけではなく、プロスポーツの観戦やコンサートなどのイベントでにぎわい、『訪れる人々に元気と夢を届ける』そんな地域の希望の拠点となることを願っています。

なかほら しんたろう
中原晋太郎氏
(2024世界マスターズ陸上砲丸投げ)



進化する 安全の基盤

沖縄県消防指令センター

沖縄県消防指令センターは、平成28年4月から嘉手納町にあるニライ消防本部庁舎内で運用を開始していましたが、令和8年度より新たな団体が参画することで38市町村(管轄人口約112万人)となります。119番緊急通報に対応する設備の全体更新をするとともに、高機能消防指令センターを整備し、更に災害活動拠点機能を有した新施設をうるま市で運用いたします。

大切な人を、安らぎと静けさの中で 火葬施設老朽化対策事業



金武湾や平安座島などの島々を見渡せる小高い場所に位置し、生前故人が見てきた町並みや豊かな大自然を感じながら会葬者が思いを馳せつつも、「厳粛さ」と「静けさ」をテーマに「心穏やかに大切

な人を見送ることのできる安らぎの場」として、また、これまで以上にスムーズで安心できる葬儀を行えるようになり、ご遺族の方々の気持ちに寄り添ったサービスを提供できる施設になります。

うるま市民の声



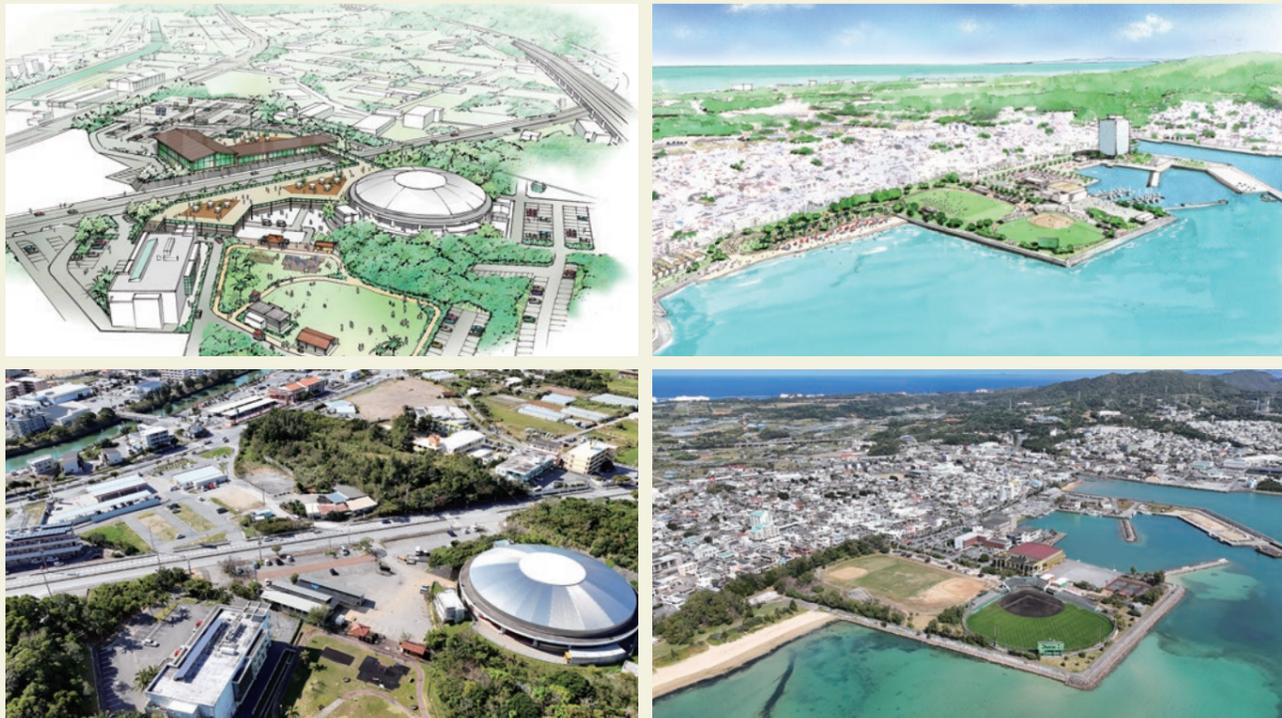
この場所から、 未来の安心をつくっていく

新しい指令センターは、次の時代の「安全の基盤」。技術も体制も進化する中で、私たち消防士も進み続ける。未来のうるまを守る人になりたい。

きくち たゆう
隅谷 祐宇氏(うるま市消防本部)



石川エリア



文化と交流が息づく 賑わいの拠点・石川

石川エリア

石川地域のまちづくりは、立地やアクセス性といった強みを活かしながら、独自の文化、観光、産業、居住等の多面的な魅力向上を図り、次代を担う若者層をはじめ、多世代の就業・交流・賑わいの拠点となるような「通過から滞在するまち」の実現に向けて取り組んでおります。将来的には、人流創出と経済波及の好循環による持続発展可能な石川地域を目指していきます。

うるま市民の声



まちが変わっても、
あたたかさは変わらない

道路や施設が整い、人の流れも変わる石川。でも、昔からの優しさはそのままです。子どもの頃から過ごしたこの大切な場所を、人々が集い、夢を育む町へ。音楽の力も借りて、もっともっと地域を盛り上げていきたいですね。

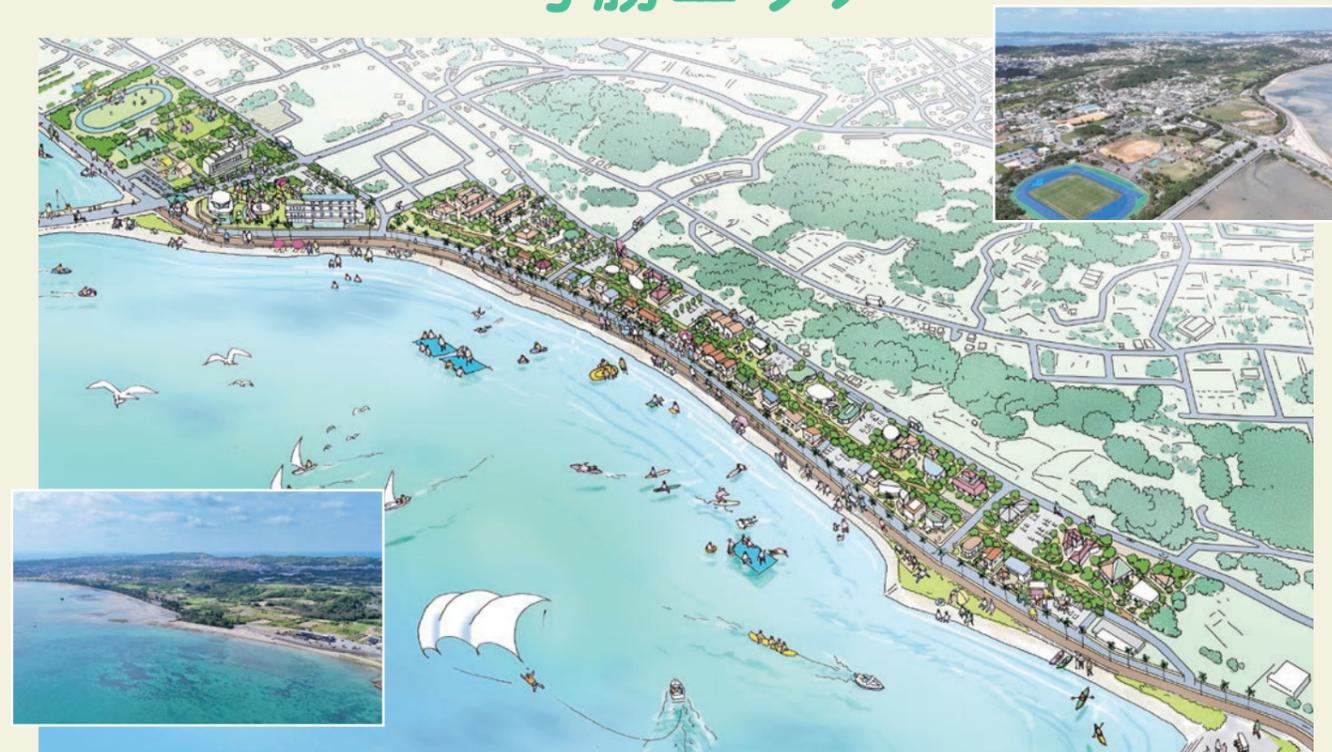
いしかわ まさと
石川真也 氏(うるま市出身 歌手)

食で育む、こどもの未来と うるまの力

新石川調理場

新石川調理場では、これまでの課題であったアレルギー食への対応を始め、地場産食材を活かしたうるまらしい魅力ある学校給食の提供に努めます。また、施設では調理風景の見学や多目的室での講座が可能となり、「食」の大切さが学べ、子どもたちの健やかな成長と市民の健康増進を図るとともに、災害時においては、地域と協力した災害対応の一翼を担える施設づくりを目指していきます。

与勝エリア



歴史と自然が織りなす 感動体験リゾート

与那城エリア

勝連・与那城地域のまちづくりは、旧与那城庁舎周辺を中心としたエリアを観光・交流・賑わいの拠点としてのまちづくりを進めています。特色ある地域資源の磨き上げを図り、多くの人を惹きつける魅力あふれる地域を形成するとともに、来訪者の長時間の滞在や活発な消費を促す仕組みを構築し、「沖縄県東海岸を代表とする感動体験リゾートエリア」として地域の経済活性化を目指していきます。

うるま市民の声



与勝と闘牛の未来は熱い
自分たちの与勝には、歴史と自然の魅力がいっぱい。闘牛の熱気とともに、観光客も地元の人と一緒に楽しめる街になるのが楽しみだね。

あかひね ゆたか
赤嶺浩 氏(与勝闘牛組合)

悠久の時に思いを馳せ、 歴史や文化、自然に触れ学ぶ、 感動的な体験を共有するパーク

勝連エリア

勝連城跡周辺整備事業では、「世界遺産勝連城跡」を中心に、その周辺を一帯的に整備し、勝連城跡周辺地域の活性化を図るため、本事業を進めています。人々が賑わえる物販飲食施設や滞在施設、地域の方々が憩い集える公園などの整備を行い、市の一大観光拠点として、より魅力あるエリアへ生まれ変わります。また、与那城地域をはじめとする周辺地域と連携することにより、活気ある勝連・与那城地域まちづくりを推進していきます。



勝連城跡周辺整備事業

Next uruma 感動を紡ぐ、うるま市の未来。

【子育て】

【教育】



すべてのこどもが 夢と希望を持って成長できるまちに

母子保健の充実、子育て支援・少子化対策、幼児教育・保育の充実、子どもの貧困対策、配慮を要するこどもへの支援という、5つの主要施策を展開しています。具体的には待機児童の解消や子育て世帯の相談支援、健康・保健の充実やこどもの居

場所づくり等に多角的に取り組むことで、家族や地域ぐるみで支える環境づくりを目指しています。また、保護者が安心して子育てできるまちづくりを推進するとともに、すべてのこどもがいきいきと成長できる社会を目指しています。



こどもから大人まで 健やかに学び続けられるまちに

未来を拓く人材を育成するため、「学校の力」「家庭の力」「地域の力」を発揮し、未来を担うこどもたちが「生きる力」を身に付け、高い志を持てるまちを目指します。その実現のために、教育施設・設備などの教育環境、スポーツ環境の整備に取り組み、

豊かな心と健やかな体を育み、意欲を育てる教育の充実に向けた取組みを推進します。また、市民それぞれのライフステージやライフスタイルに応じた生涯学習活動の機会を提供し、生涯学習・社会教育環境の充実を目指します。



第三の居場所で貧困の連鎖を断ち切る！

一般社団法人 やましろ やすよ あん 山城 康代 館長

うるま市の子育て支援に20年尽力し、合併前から児童館設立に関わってきました。その中で、児童館だけでは支えきれないこどもたちの存在に気づき、現在は3箇所の「こどもの居場所」を運営しています。家庭環境に困難を抱え、食事や生活習慣が整わない

こどもたちが、安心して過ごせる「第三の居場所」を提供。ここでは生活習慣を学び、貧困の連鎖を断ち切ることを目指しています。こどもたちが自分らしく、望む幸せな人生を歩めるよう、これからも支援を続けてまいります。



幸せ溢れる、うるまの未来に向かって！

赤道小学校 おおざと げんじ 大里 元児 校長(令和5年～6年 学校教育部 部長)

未来は不透明でだれも予想できないスピードで変化する正解のない時代を私たちは生きていきます。そして世界の人々はそれぞれの場所で懸命に学び考えながらWell-Being(より幸せな状態)に向かって歩んでいます。

こどもたちには、学びを通して「地域を知り！地域を愛し！地域を誇れる人」となって「うるまのみらい」に向かって歩んでほしい。なぜなら、二十歳を迎えたこの「うるまのみち」には「幸せ」のタネが溢れているのだから。

Next uruma 感動を紡ぐ、うるま市の未来。

【福祉】

【にぎわい】



誰もが健やかに自分らしく 生きられるまちに

すべての人々が住みなれた地域で、健康的で自立した豊かな生活が送れるよう、関係機関と連携して地域福祉の充実を図ります。そのためには、高齢者、障がい者、子育て世帯など多様な層のニーズを丁寧に把握し、属性を問わない相談支援ができる体

制を整備します。また、地域福祉活動や社会資源との支え合いによる一体的な「重層的支援体制」を構築し、すべての人々に寄り添った福祉行政を推進します。誰もが共に支えあう“いーやんべー”のまちづくりを目指します。

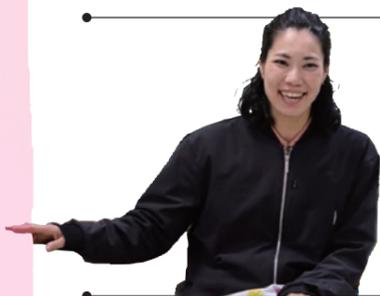


スポーツ、福祉分野でうるま市に貢献したい！

2024 パリ・パラリンピック 車いすマラソン 日本代表 なかみね(きな) つばさ 仲嶺(喜納)翼選手

うるま市は、こどもたち、高齢者、障がいがある方…すべての方が自分らしく安心して生きていける「人が輝くまち」だと思います。私もうるま市民の皆さんを始めとする多くの方々の声援をうけ、世界で戦うことができました。“恩送り”と

して、未来を担うこどもたちのためになればと思います。学校講演や図書館での読み聞かせなどを行ってきましたが、今後はスポーツ分野のみならず、福祉分野においても「うるま市民」としてかわり、貢献できればと考えております。



地域特性や感動資源を活かした産業で 活気あるまちに

農水産業では、生産基盤や農漁村集落の整備とともに、環境にやさしく地域資源や地理的特性を活かした振興を推進します。市民生活における環境整備に加え、風光明媚な自然や、エイサー・闘牛・獅子舞などの伝統文化を活用した観光振興にも取り組み、ありのままの地

域の魅力を経済の力へとつなげます。また、製造・情報・物流など成長分野の企業誘致や、就業支援、雇用情報の充実を進め、市民と行政が一体となって多様な雇用の場を創出し地域経済の発展へつなげ、それらが社会福祉を支える好循環型のまちづくりを目指します。



持続可能な成長と地域経済の未来のために！

株式会社ファーマーズ・フォレスト まつもと けん 松本 謙 代表取締役社長

うるま市20周年、心よりお祝い申し上げます。私どもは、うるマルシェを地域資源の発信拠点と位置づけ、黄金芋や海ぶた、津堅島の小麦といった唯一無二の価値を商品や体験へと昇華させてまいりました。これからも

施設を運営する責務として、地域の生産者並びに事業者の所得向上の為、持続可能な成長と地域経済の未来を創造する一翼を担ってまいります。



写真で振り返る うるま市の20年 2005~2009

うるま市の誕生から現在まで。これまでの歩みを
当時の写真とともに振り返ります。

具志川市・石川市・勝連町・与那城町合併協議会
新名称決定



「豊かな自然と人が調和した健康で心豊かな活力ある歴史と教育文化のまち」
実現に向けてうるま市誕生！



4市町村の委員が集い、合計25回にわたる合併協議会が行われました。

2005.4 うるま市誕生



平成17年4月1日、うるま市誕生
※うるま市誕生からの約1か月間は、前勝連町長・蔵當 眞徳氏(くらとうしんとく)がうるま市長職務執行者を務めました。

2005



2006.8 第一回うるま市エイサーまつり 第一回うるままつりが 盛大に開催！

合併後初の大きなまつりが開催。
「第一回うるま市エイサーまつり」には、子ども会2団体と市内の青年会14団体が出場し、演舞を披露。「第一回うるままつり」は初日の盆栽展を皮切りに闘牛大会、ヤングミュージックステージ、うるま市民謡の夕べ、龍神の宴～新たな伝説～など、多彩な催しで多くの人々に賑わいました。

2007

その他の出来事

2005

- 4月 うるま市初の議会開催
- 4月 うるま市石川に児童館「チャレンジ」オープン
- 7月 第一回 うるま市みほまつり

2006

- 3月 市章・市旗掲揚式
- 4月 もずくの日フェア開催
- 5月 世界遺産勝連城跡休憩所オープン



2008.10

うるま市健康福祉センター うるみがオープン

うるま市安慶名十字路近くに健康福祉センター「うるみん」がオープン。「うるみん」は一般公募で採用された愛称で、「うるま」の「民」で「うるみん」、うるま市のみんなが集える場所という意味が込められています。



2008



2007.5 石川多目的ドームが完成！

市の伝統的な催しや地域及び文化等の交流の場となる「石川多目的ドーム」(収容人数約3000人)が5月12日落成。多くの関係者が参加して施設の完成を祝いました。

2007

- 1月 第一回うるま市伝統芸能祭開催
- 5月 全国闘牛サミットin うるま開催
- 11月 宮城島の観光名所を整備完了

2008

- 7月 屋慶名大綱引き開催
- 7月 庁舎連絡バスの試運転を開催
- 11月 うるま市子ども議会開催



2009.6

沖縄IT津梁パーク開所

6月11日、中城湾港新港地区の洲崎地区に、中核機能支援施設としての役割が期待される「沖縄IT津梁パーク」が完成。企業立地・雇用促進に大きな期待が寄せられました。



2009



2009.4 具志川ドームが完成

市民の健康とスポーツ振興のために建設が進められていた「具志川ドーム」が完成。落成式には元横綱・千代の富士の九重親方、大関の千代大海関などを招待して施設の完成を盛大に祝いました。



2009

- 2月 第一回うるま市健康福祉祭り
- 5月 元三役離任式
- 6月 島袋俊夫市長就任

写真で振り返る うるま市の20年 2010~2014



2010.7 市制施行5周年記念式典 「うるま市民音頭」が 披露される

うるま市誕生5周年を記念し、うるま市民芸術劇場において「うるま市制施行5周年記念式典」が開催されました。式典では、本市の発展に貢献された74人と3団体が「市政功労者」として表彰されました。また、6月15日に制定された「うるま市民音頭」が初めて披露されました。



2012.4 4島7つの小中学校が閉校式。 彩橋小中学校が開校

学校統合のため、島しょ地域の7小・中学校の閉校式が比嘉小学校、浜中学校、伊計小中学校、桃原小学校、平安座小中学校、宮城小学校・宮城中学校で行われました。平成24年4月に開校する新設校は「彩橋小中学校」となりました。



2014.7 半世紀ぶりに マーラン船が復元

古い時代、沖縄では、うるま市平安座島を中心に北は奄美大島諸島から南は与那原や那覇、先島諸島にかけて「マーラン船」と呼ばれる交易の船が往来していました。その「マーラン船」を、与那城平安座在住の越來治喜さんらの手によって復元されました。



2014



2010.6 うるま市民音頭を制定

愛知県在住の石井昭吉氏の作品が選ばれ、うるま市民音頭検討委員会にて補作。作曲、編曲及び振付を同検討委員会の神谷幸一氏、赤嶺康氏、兼島順子氏が手掛け、完成しました。

2010



2010.9 地域交流センターが 使用開始

市民や来訪者の交流拠点として誕生した地域交流センター。イベントや市民活動、日常のゆんたくの場として親しまれる。



2011.5 うるま市観光物産協会 開所式

市内90社以上が参加し、観光産業と物産振興の拠点として活動開始。観光客誘致や特産品開発が期待される。

2011

盛岡市友好都市提携



2012.7 うるま市・盛岡市友好都市！

岩手県盛岡市を舞台にしたNHKドラマ「どんと晴れ」に、うるま市出身の女優・比嘉愛未さんが出演したのをきっかけに、盛岡市とうるま市は様々な交流を重ねてきました。これからも積極的に交流を深めていくことを誓い、7月31日に友好都市提携調印式が盛岡市内にて行われました。



2013.11 人と環境にやさしいシンプルで 機能的な総合庁舎建設工事がスタート

市民の利便性の向上、行政コストの削減等を図るため、平成23年度から進めていた統合庁舎建設事業の実施設計が完了し、本格的な工事に先駆けて安全祈願祭、起工式が行われました。



2012.12 人口12万人目に 達成！

平成24年12月24日に提出された出生届をもって、うるま市の人口が12万人に到達しました。翌月には市役所本庁舎前で記念式典が行われ、ご家族に記念品と花束が贈られました。

その他の 出来事

2010

- 7月 マンゴーの拠点産地に認定
- 8月 美ら海沖縄高校総体2010開催
相撲団体競技で中部農林高校が準優勝

2011

- 4月 沖縄アミックスインターナショナル開校
- 7月 うるま市消防本部・具志川消防署庁舎落成式典
- 10月 第5回世界のウチナーンチュ大会・世界のうるまんちゅ歓迎会

2012

- 10月 うるま祭りで盛岡さんさ踊りが披露される
- 12月 うるま市出身の
東浜巨選手(福岡ソフトバンクホークス)
屋宜照悟選手(北海道日本ハムファイターズ)の
入団報告

2013

- 1月 うるま市男女共同参画宣言都市記念式典
- 3月 ご当地ヒーロー・伝統神ウルマー誕生
- 5月 島袋市長2期目就任

2014

- 11月 沖縄市・うるま市 災害時における相互応援に関する協定書調印式
- 11月 与那城出身バンドHYによる「HY SKY FES」開催
- 12月 きむたかこどもセンター落成式

写真で振り返る
うるま市の20年

2015~2019



2015.5

全国闘牛サミット 闘牛大会、迫力の一戦!

うるま市の合併10周年を記念し、石川多目的ドームで「全国闘牛サミット闘牛大会」が開催。地域の伝統文化である闘牛を全国に発信するとともに、岩手、新潟、島根、愛媛、鹿児島各県から選抜された牛が集結し、地域の誇りをかけた熱戦が繰り広げられました。



2016.9

勝連城跡コイン

勝連城跡の発掘調査で4世紀頃のローマ帝国のコイン4点、17世紀頃のオスマン帝国時代のコイン1点が発見されました。本コインの出土例はなく、同時代遺跡で初めての発見となります。



2019.10
観光振興のため
「闘牛のまち」宣言

闘牛は広く市民に親しまれ、市の無形文化財にも認定されています。闘牛の逞しくも心優しい精神になり、住みよいまちづくりを目指すことを目的として、第14回うるま祭り闘牛大会において「闘牛のまち」宣言が行われました。



2019

2015



2015.6

海中道路に 幻想的な光

海中道路平安座大橋でライトアップが開始! 赤い主塔とケーブルが鳳凰を表し、シンボルとして親しまれる。



2016.1

新庁舎(東棟)落成式

ライトアップや祝賀イベントで新庁舎の式典を実施。本市のこれからの市民協働のまちづくりの拠点となる新たな新庁舎の落成を市民全員で祝いました。



2017.4

生涯学習・文化振興拠点施設 「ゆらてく」が供用開始

一括交付金を活用し、生涯学習だけではなく、文化振興にも寄与する新たな活動の拠点となる生涯学習文化振興施設「ゆらてく」が完成しました。ゆらてくは、沖縄の方言で「寄って来て、という意味があります。



2018.11

うるマルシェグランドオープン!

「食を通じてうるま市を元気に」を合言葉に、地元農水産物の直売所や、フードコートを備えた複合施設「うるマルシェ」が誕生! 地産地消や観光振興拠点として親しまれています。



その他の
出来事

2015

- 7月 うるま市まちキャラ「うるうらら」デビュー
- 8月 勝連南風原集落が「農林水産祭むらづくり部門」で農林水産大臣賞受賞
- 12月 合併10周年記念並びに新庁舎落成合同式典

2016

- 7月 旧伊計小中学校を活用した広域通信制N高等学校が開校
- 8月 第6回世界のウチナーンチュ大会関連イベントとして、「世界のうるまんちゅ交流レセプション」を実施

2017

- 4月 生涯学習・文化振興拠点施設「ゆらてく」が供用開始
- 7月 岩手県盛岡市との友好都市提携5周年を迎える
- 11月 岩手県盛岡市との友好都市提携5周年記念式典を開催

2018

- 7月 FMうるま情報局から「ラジオ広報うるま市役所だより」がスタート
- 7月 県より肉用牛(子牛)拠点産地として認定
- 11月 安慶名地区内のラウンドアバウト(環状交差点)開通

2019

- 3月 平敷屋幼稚園、天願幼稚園が閉園し、認定こども園へ移行
- 6月 宮森小学校ジェット機墜落事故から60年
- 12月 大相撲沖縄場所が貝志川ドームにて開催

写真で振り返る うるま市の20年 2020~2024



2020.1

豚熱(CSF)の発生

うるま市で33年ぶりに豚熱(CSF)が確認され、防疫措置や移動制限が実施されました。



2020.2

新型コロナウイルス感染症の拡大

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大。うるま市でもイベント中止や学校休校、感染防止対策が行われ、市民生活に大きな影響を及ぼしました。



2021.1

うるま市の魅力を全国へ！HY観光大使就任

うるま市出身で全国的に人気を誇るバンド「HY」が、市初の観光大使に就任！地元を愛し、市民に親しまれてきたHYの就任は大きな話題となり、ライブやメディア出演を通じて市の魅力を広く発信してくれています。



HY就任
動画



HY1周年
記念動画



2021.10

TERUMA~east coast~オープン

東照間商業施設がリニューアルし、うるま市の新たなランドマークが誕生しました。



2021.10

歴史文化拠点「あまわりパーク」オープン

勝連城跡を中心に市内で発掘された貴重な出土品を数多く展示している資料館。交流施設、休憩スペースなどを備え、地域の文化を体感できる場として整備。



2022.4

こどもステーション落成

発達に課題を抱える児童を、医療と福祉の両面から複合的に支援する施設「福祉と医療の杜うるまこどもステーション」がオープン

2022.8

岩手県盛岡市との友好都市提携10周年

これまで、文化・スポーツ・観光など幅広い分野で交流を重ね、また、職員同士の人事交流も行ってきました。



友好都市
10周年記念動画



2024.10

東京都文京区と友好都市協定締結

10月に勝連城跡で友好都市協定を締結。うるま市と文京区が共通の友好都市である、盛岡市からのご縁をきっかけに絆を深めていきました。



友好都市
記念動画

2023.4

日本初！感動産業特区宣言

地元事業者や生産者、市にゆかりのある著名人と行政が一つとなって、「感動」で「産業」を元気にするまちづくりを宣言しました。

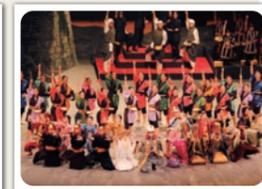


2023

2023.8

現代版組踊「肝高の阿麻和利」東京シティプロモーション

東京都文京区シビックホールで、現代版組踊「肝高の阿麻和利」を上演！地域の伝統文化を首都圏に紹介し、市の魅力発信と観光振興に寄与する取り組みとなりました。



2023東京公演
一生懸命はカッコいい

2020

2021.4

島袋市長、上間副市長退任

在任中は市政の発展や地域課題への対応に尽力し、退任式ではこれまでの想いと感謝の気持ちを述べました。



2021.4

第3代うるま市長 中村正人 就任

初登庁では正面玄関に多くの職員が集まり、歓迎の花束を受け取りました。新市政による新たな市政運営がスタートしました。



2021

2020

- 4月 市プロジェクトチーム「新型コロナウイルス対策室」を設置。コロナ対策を全庁的に進める。
- 11月 市政功労15周年記念式典が執り行われる。

2021

- 4月 離島では全国初。津堅島新型コロナワクチン接種
- 6月 石川多目的ドームに「ポケファ設置」
- 11月 喜納翼 市民栄誉賞

2022

- 7月 比嘉一貴 日本男子プロゴルフツアー賞金王
- 9月 エイサーまつり、うるま祭り 3年ぶりの開催
- 10月 具志川多種目球技場にクラブハウス完成

2023

- 6月 石川多目的ドーム316インチ大型ビジョンお披露目
- 9月 平川 陸上・全国高校総体男子400M優勝
- 10月 ハワイ山火事 2,000万円の災害寄付金贈呈

2024

- 4月 待機児童ゼロ達成
- 9月 喜納翼選手パリパラリンピック日本代表選出
- 9月 第19回うるま市エイサーまつり 県道75号線で初開催

その他の
出来事



うるまの名産・特産・推奨品

まんまうるま セレクション



まだまだあります！
うるまの魅力

うるま市の魅力や感動がつまった 自慢の逸品をご紹介します

令和6年度、感動産業特区を宣言したうるま市が有する多様な感動に由来する新たなブランド「まんまうるま」が誕生しました。うるま市の様々な魅力を通じてうるま市に内在するありのままの感動を届けることを目的に「まんまうるまセレクション」として始動しました。特産品から土産、日用品までうるま市が誇る自慢の商品をご紹介します。



もずくスープ (カップ)
合同会社海市水産

歯ごたえのある食感を生かし子どもから大人まで人気の手軽に食べられる生もずくスープ。



もずくスープ (カップ)
合同会社海市水産

お土産にも最適な手軽にバッグに入る5食入りの生もずくスープ。インパウンドにも大人気。



アンダカシー うま塩味
龍華

主原料の豚皮や脂は沖縄県産豚のみ。昔ながらの釜揚げ製法にてカリッと軽くスナック菓子のような食感。



いもぼき
黄金茶屋

自社農園で育てた濃厚な甘さの黄金芋を焼き芋にして皮ごと使いながらポキポキと楽しい食感が特徴のお菓子。



沖縄宮城島の海塩 むちまーす 250g
株式会社ぬちまーす

うるま市宮城島沖の海水100%を使用し、世界初の独自製法で結晶化、海洋ミネラルを豊富に含んだ塩です。



おかしなオードブル
おやつの実 Lafra

沖縄の素材やモチーフの見て楽しい、食べて美味しい焼き菓子ギフト。沖縄土産や内祝いギフトでも好評。



生もずく
勝連漁業協同組合

3月~4月初旬と限られた時期に収穫され、県外などにほとんど流通しない生もずく。独特なぬめりと食感が特徴。



あまSUN
うるま市農作物等産地連絡協議会

清見みかんや複数の品種をかけ合わせてできたあまSUN。糖度は12度、酸度は0.8%程度で濃厚な甘みが特徴。



津堅にんじん
うるま市農作物等産地連絡協議会

津堅島で育った「津堅にんじん」は甘さが10度以上あるものもあり、色鮮やかで甘み豊かな味わいが特徴。



アップルバナナ
うるま市農作物等産地連絡協議会

うるま市産のアップルバナナは甘さの中にほのかな酸味があり、もちっとした食感に人気が集まっています。



マンゴー
うるま市農作物等産地連絡協議会

温暖な気候で丁寧に栽培管理されたマンゴーは、鮮やかな色に、あふれ出る果汁、桃のようにとろける果肉が特徴。



照間ビーグ (い草)
い草生産組合

約120年の歴史がある照間ビーグは、草も表皮が厚く、耐久性に優れ、天然素材を製品にするため健康的にも良い製品です。



グアバ茶 (ボトル)
農事組合法人グアバ生産組合

焙煎されたグアバ茶がさっぱりと飲みやすく、ノンカフェイン・ノンカロリーと健康にも配慮された最高の一杯。



暖流 SHIP30 度
有限会社神村酒造

1968年に誕生した日本初ウイスキー樽で貯蔵した泡盛です。飲み心地の良い優しい甘さと余韻が特徴です。



琉球泡盛 松藤 5年古酒 44度 720ml
株式会社松藤

三日麴の旨さと熟成を重ね、豊かな風味と芳醇な香りが特徴。やわらかさの中にもしっかりとしたコク感は松藤ならでは。

1 沖ツラの作者はうるま市在住! 沖縄にルーツも!

「沖ツラ」とは、沖縄県うるま市を舞台にしたラブコメディ漫画「沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる」の通称で、2020年から連載がはじまりました。その作者である空めぐみさんは大阪府出身ですが、祖父が沖縄出身で、沖縄にルーツがあります。現在うるま市に住みながら創作活動を続けていて、作中ではうるま市が度々登場します。



沖縄で好きになった子が方言すぎてツラすぎる

2 うるま市の観光大使はHY



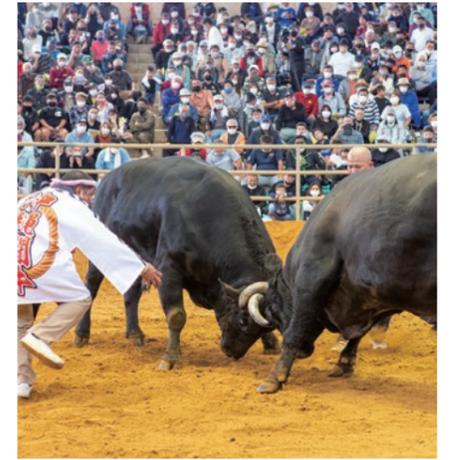
2021年1月8日、HYはうるま市の観光大使に任命されました。グループ名は、彼らの地元であるうるま市の東屋慶名(Higashi Yakena)に由来し、地元を想う気持ちを歌詞や曲にして表現し続けています。2019年にはHYの歴史が詰まった「HeartY Museum」が市内に設立され、ファンの聖地として愛されています。

5 エイサー団体数が多いうるま市



うるま市は「エイサーの郷」とも称されるほど伝統的なエイサーが盛んで、令和7年10月時点の団体数は12にも及びます。古くからの型を受け継ぐ青年会や数多くの団体が活躍しており、なかでも平敷屋エイサーは200年以上の歴史があり、県内で最も古い歴史を持っています。また屋慶名エイサーは135年に渡って受け継がれており、豪華な衣装や威厳な舞が有名です。

6 「闘牛のまち宣言」うるま市で



うるま市は、7つの闘牛組合と6か所の闘牛場が組織されるなど県内の他地域に比べても闘牛が盛んで、2019年10月19日に開催された「第14回うるま祭り闘牛大会」で日本初となる「闘牛のまち」を宣言しました。これは闘牛を観光資源として活かし、地域活性化と文化の保存、継承を目指すものです。

7 GOGOうるまラバーTシャツとは?

うるま市出身のタレントやアーティストが出演し、市の魅力を発信しているYou Tube番組「GO! GO! URUMALovers」のロゴがあしらわれた、うるま市公認のTシャツです。2024年7月より販売開始し、県外からもまとめて購入希望があるほどの人気ぶりです。市内では、照間(TERUMA-east coast-)や一部ファミリーマート店舗にて「GOGOうるまラバーTシャツ」を販売しています。



8 うるま市は超細長い市?!



読み込むと動画が見れるよ!

うるま市は沖縄本島の中部東側に位置しており、金武湾の南岸から勝連半島、さらに海中道路を通過して複数の島々まで、東西にとっても細長く伸びた地形をしていることから「長い市」と言えます。面積は86.08km²という比較的コンパクトな面積ながら、その独特の地形によって多彩な自然の風景を作り出しています。

思わず教えたくなる!?

うるま市トリビア

気になるうるま市の噂を調査!これを知れば、うるま市のことがもっと好きになるはず!



3 もずくの産地日本一?

沖縄県は、日本国内でもずくの生産量が突出しており、全国の約90%以上を占める圧倒的な供給地です。その中でも、うるま市(特に勝連地域)は県内最大のもずく産地で生産量の約4割を占めていることから、「日本一」だと言われています。



4 「海から豚がやってきた」上陸は、うるま市のホワイトビーチ



「海から豚がやってきた」は、教科書やミュージカルを通して沖縄で広く知られた物語です。戦後食糧難だった沖縄に、ハワイの沖縄県系の人々の募金で集めたお金で購入した豚550頭を送ったという実話で、この豚が1948年に上陸したのが現在のうるま市勝連にあるホワイトビーチでした。

9 うるま市の「キャロットアイランド」知ってる?

うるま市の漁港から高速船で15分、フェリーで30分の場所にある「津堅島」の愛称です。島の面積の8割が畑で、そのうちの6割がニンジン畑ということから「キャロットアイランド」と呼ばれるようになりました。展望台やベンチなど、島のいたる所にニンジンモチーフの物があり、とてもフォトジェニックです。



10 方言がそのまま市名に!? うるま市の由来

「うるま」とは沖縄の言葉で「サンゴの島」を意味し、古くは琉球王国時代の歌や文献にも登場するなど、沖縄全体を象徴する言葉として用いられてきました。2005年、具志川市・石川市・勝連町・与那城町の2市2町が合併し、新たな市名を公募したところ、5,133件の応募の中から「うるま」が選定され、市名として制定されました。地域の言葉をそのまま自治体名に採用する例は全国的にも非常に少なく、美しい海と豊かな自然に囲まれた本市の姿を象徴するとともに、市民の郷土への誇りと未来への希求を託した名称となりました。





発行日/2025年10月

発行所/うるま市 防災広報対策部 秘書広報課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

☎098-974-3111(代)

<https://www.city.uruma.lg.jp/>

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷